

名勝小金井（サクラ）名勝指定 100 周年記念事業

小金井市・小平市共催「こだいら・こがねい文化財めぐり」

令和6年（2024）11月30日（土曜）午前9時30から午後0時30分まで

玉川上水沿いに江戸時代に植えられた小金井サクラは、国の名勝に指定されてから 100 年を迎えます。小金井サクラとこの地域の新田開発にまつわる江戸時代の痕跡を見つけながら、小平市鈴木遺跡資料館から小金井市文化財センターまで歩きます。

鈴木遺跡資料館

鈴木遺跡は後期旧石器時代の重要な遺跡として、国の史跡になっており、資料館では出土品をご覧いただけます。50 年前に本格的な発掘調査が行われるようになったきっかけは、江戸時代の水車の痕跡でした。

関野分水跡・「短冊形地割」

玉川上水開削以降、多くの分水が掘られました。関野分水は、享保 19 年（1734）に開削許可を得ました。この近辺は五日市街道や村道に沿って屋敷、ウラに畑地が広がり、オクに雑木林が配置される細長い「短冊形地割」が特徴です。

海岸寺山門 小平市指定文化財

天明 3 年（1783）頃に建てられたと伝わる山門です。四脚門で、屋根は茅葺きの切妻造り、南面しています。海岸寺は鈴木新田の村人の願いによって、三峰山にあったお寺を引寺して成立しました。

江戸時代からの小金井桜の絵図にも描かれています。

令和 5 年度には、建築以来の大規模修繕工事を行いました。



海岸寺・小金井桜樹碑 小平市指定文化財

文化 7 年（1810）に建てられた小金井サクラの由緒が書かれた碑です。江戸時代に作られた拓本は、金井観花詩歌図巻 付小金井桜樹碑拓本として小金井市指定文化財になっています。

当時、小金井桜の由来が諸説あるような状況になっていたため、江戸時代の漢学者大久保挾南が、武蔵野新田世話役であった川崎平右衛門定孝の桜植樹の功績を伝えるため、平右衛門の孫等とともに建立しました。

行幸松と行幸松の碑 小平市指定文化財

この松は明治天皇が明治 16 年（1833）に小金井サクラの観桜のために行幸したことを記念して植えられたもので、石碑は海岸寺住職玄格と有志によって、明治 35 年（1902）にこの松の由来を伝えるために建てられました。

小平市の御幸町の由来は、明治天皇が観桜のためこの地に行幸したことに由来します。



陣屋橋

昭和 48 年（1973）に新設された人道橋で、陣屋（次項目）に由来します。昔は、やや下流にありました。

武蔵野新田開発陣屋跡

元文 4 年（1739）、南北武蔵野新田場世話役に登用された川崎平右衛門は、関野新田に南武蔵野新田開発のため陣屋を置き移り住み、手代の高木三郎兵衛らと新田の復興にあたりました。当時は周囲に土塁をめぐらし、屋敷を構えて、北側には用水路や井戸もあったといわれています。なお、下小金井村（現：小金井市中町一帯）から陣屋橋を渡り陣屋に通じる道を「陣屋道」といいます。

真蔵院・川崎平右衛門供養塔 小金井市指定文化財

真蔵院は延享 2 年（1745）、関野新田名主関家が御岳山中の廃寺を引寺し菩提寺としました。川崎平右衛門供養塔（市指定有形文化財）は、死後 28 年の寛政 7 年（1795）に近隣新田の農民たちの追慕の念を表わして造立したものです。

明治 2 年（1869）の御門訴事件の際には、集結地点にもなっています。

御門訴事件は川崎平右衛門の作った武蔵野新田に対する補助制度「武蔵野新田養料金并溜雑穀」では認められていた貯穀制度の取り扱いが発端になった事件です。



平右衛門橋

小金井市の整備活用計画では、小金井公園前の歩道橋を人道橋に改修する案を採用、名勝景觀に合い史跡の保護に配慮したフィーレンディール構造橋と決定しました。この形式は全国でも 10 数橋しかない珍しい橋です。

平成 27 年（2015）に竣工し、橋名は市民公募により「平右衛門橋」と命名されました。

小金井市文化財センター 浴恩館 小金井市指定文化財

市内から出土した考古資料・古文書・民具などが展示されており、小金井市の歴史や昔の生活に触れることができます。

（めぐりのルート外）関野八幡神社・「松島家のサンシュユ」と後継樹

新田開発の際に創建されたといわれる関野新田の鎮守です。昭和 18 年（1943）小金井大緑地の造成によって、移転しました。陣屋が置かれた関野新田の村役人をつとめた松島家に、幕府から川崎平右衛門を通じて、新田開発成功の賞として贈られたものと伝えられ、市内では最も古い木でした。平成 26 年（2014）に枯死し市指定文化財は解除しています。その後、関野町の住民の努力によって、後継樹の育成に成功し、八幡神社境内に植樹されています。



枯死前のサンシュユ

国名勝 小金井(サクラ) (小平市・小金井市・西東京市・武蔵野市)

玉川上水堤の桜並木は、元文2年(1737)頃、幕府の命により川崎平右衛門等が大和の吉野山・常陸の桜川等からヤマザクラを取り寄せ、小金井橋を中心とする上水の兩岸東西6kmに植えたと伝わります。やがて見事な桜並木に成長し、歌川広重が錦絵に描く等、江戸近郊の桜の名所になりました。

大正13年(1924)に、桜の調査や保護活動が実り、国の名勝に指定されました。



平右衛門橋付近(大正元年前後)



関野橋付近(令和5年)

鈴木遺跡資料館

国史跡 玉川上水 (羽村市～世田谷区までの開渠部分)

玉川上水は、江戸市中の飲料水の不足を補うために掘られた上水路です。承応2年(1653)、公共事業として庄右衛門・清右衛門が工事を請け負って着工、多摩川の羽村堰から新宿四谷大木戸まで約43kmをおよそ8ヶ月の短期間で完成させたものです。その後、水に乏しい武蔵野の村々に分水が許され、新田地域の発展に大きな役割を果たしてきました。

平成15年(2003)に、土木遺構として学術的価値が認められ、開渠部分約30kmが国の史跡に指定されました。

玉川上水

関野分水跡

海岸寺

陣屋跡

真蔵院

小金井(サクラ)

貫井橋

小金井橋

行幸松

陣屋橋

砂川用水

平右衛門橋

小金井(サクラ)

小金井市文化財
センター 浴恩館

緑町(三)



小金井橋と桜並木(明治後期)

小金井橋

小金井橋は、承応2年(1653)、玉川上水が開かれた時に架けられたものと思われます。やがて小金井堤が桜の名所となると「金井橋」・「黄金井橋」・「金橋」とも呼ばれ、歌川広重らが錦絵などに描きました。安政3年(1856)に木橋から石橋に架け替えられ、明治時代以降も名勝の中心として多くの写真や絵画にその面影を見ることができます。明治3年(1870)から5年にかけて玉川上水に通船が行われ、その時の船溜が小金井橋の上流左岸にありました。昭和5年(1930)にレンガ造アーチ橋に架け替えられ、小金井桜とともに地域のシンボルとして親しまれてきましたが、平成20年(2008)、都道拡幅に現在の橋がかけられました。

地理院地図

地理院タイルに今回のルート(赤い線)・関連文化財を追記